

四国圏域生態系ネットワークの目標・基本方針及び取組の情報発信

四国圏域生態系ネットワークの目標

- 「四国圏域生態系ネットワーク全体構想」（2019年2月）において、2050年までの到達目標、2030年までの中期目標を掲げて、四国圏域、各流域・地域で取組を進めています。

到達目標（～2050年）	
<p>四国全域で、河川を基軸とした生態系ネットワークが形成され、自然と共生した安全・安心で魅力あふれる持続可能な地域が実現している。</p> <p>◇四国各地でコウノトリ・ツル類が暮らしていることが日常の光景となり、これらが舞い降りる川や田んぼは生物多様性が豊かであると共に、美しい水辺景観が各地に広がっている。</p> <p>◇川と里での生態系ネットワークの取組は、山や海へも広がり、各地域特有の自然資源や歴史・文化・伝統を守り活かした産業と、落ち着いた暮らしが営まれている。</p> <p>◇地域に住み、働き、訪れる人々が、自然とのつながり・人とのつながりの豊かさを実感できる、四国圏域独自の個性的でアピール性の高い地域づくりが展開されている。</p>	
<p>生息環境づくり</p> <p>【コウノトリ】 四国圏域では、コウノトリの繁殖・定着が各地で進み、年間を通じて身近な存在となっている。国内の代表的な野生復帰成功地域として、堤内・堤外が一体となった生態系ネットワーク形成の達成が実感される。</p> <p>【ツル類】 四国圏域の河川や水田では、冬の訪れと共にナベヅル・マナヅルの群れが飛来し主要な水辺拠点で越冬する姿が見られる。国内における安定した新規越冬地として、堤内・堤外が一体となった生態系ネットワーク形成の達成が実感される。</p>	<p>地域・人づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コウノトリやツル類の存在や、それらが暮らす美しい水辺景観は四国圏域の新たな誇りとなり、その生息環境の保全・再生・管理が各地域の多様な主体による連携や協働で進められ、人々はその結果として様々な「生態系サービス」の恩恵が、持続的に享受できるようになっている。 ●コウノトリやツル類が象徴する生物多様性の豊かな四国圏域の生態系ネットワークの形成は、全国のみならず国際的にも注目されるようになり、ブランド農作物や訪日観光客を通じて地域経済や地域活力を担う有力資源の柱となっている。
中期目標（～2030年）	
<p>生息環境づくり</p> <p>【コウノトリ】 吉野川流域では、複数ペアが繁殖・定着する安定した生息地となっている他、四万十川・肱川・那賀川等の流域及び周辺地域では、新規繁殖地形成に向けた生息環境の保全整備が進み、複数地域で繁殖が確認されるようになってきている。</p> <p>【ツル類】 四万十川・肱川を始め吉野川・那賀川の流域及び周辺地域では、越冬環境の保全整備が進み、核となる安定的な越冬地が形成され、他地域への分散も始まっている。</p>	<p>地域・人づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四国圏域で設置された「生態系ネットワーク推進協議会」の活動により、シンボル性の高いコウノトリ・ツル類を活かした地域振興の推進が、観光やブランド商品開発、地場産業の各分野において、各流域の独自性を踏まえて積極的に展開されている。 ●コウノトリ・ツル類の各地域への定着とあいまって、地域づくりの担い手の連携と協働が進み、各主体によるそれぞれの成果の実感に基づき、さらなる活動の輪が広がる好循環の取組となっている。

四国圏域生態系ネットワークの展開に向けた基本方針

- 「四国圏域生態系ネットワーク全体構想」（2019年2月）において、7つの方針を立てて、四国圏域生態系ネットワークの展開を図っています。

生態系ネットワークの展開に向けた基本方針

■方針1：多様な主体と連携・協働して取組を進めます

目標を達成するためには、個別単独の取組だけでは十分ではありません。コウノトリ・ツル類が地域に受け入れられるように理解を深めながら、様々な関連主体とビジョン・目標を共有し、それぞれの役割分担に応じた連携・協働による取組を進めます。

■方針2：コウノトリ・ツル類をシンボルとした健全な生態系を取り戻す取組とします

健全で持続的な私たちの生活に不可欠な「生態系サービス」の供給源となる良好な生態系を取り戻すためには、高次消費者であるコウノトリ・ツル類を指標に、これらをとる多様な生きものも含めて、その生息・生育基盤となる自然環境の保全・再生の取組を推進します。

■方針3：四国圏の安全・安心の確保と合わせた「グリーンインフラ」の概念に基づく取組とします

南海トラフ地震や近年の気候変動により激甚化する自然災害へ備えるための河川整備等の公共事業と、コウノトリ・ツル類の生息環境の保全整備を一体化させた、環境と防災・減災等の融合を図る「グリーンインフラ」の取組として進めます。

■方針4：地域の社会・経済に効果をもたらす「地域創生」の取組とします

自然の保全・再生のみならず、地域の産業やコミュニティ、文化・伝統、教育、魅力的で元気な地域づくりなどの、社会・経済がもつ課題を統合的に改善させる「地域創生」の取組として進めます。

■方針5：条件が整っている地域から先行して進め四国全域への展開を段階的に進めます

コウノトリ・ツル類のくらす自然環境と社会環境の条件が整っている流域や地域から先行して事業化を進め、順次、事業地域を増やしながら、四国全域へのネットワークが広がる展開を目指します。

■方針6：広域的な視野を持ち他地域の生態系ネットワークとの連携を意図した取組とします

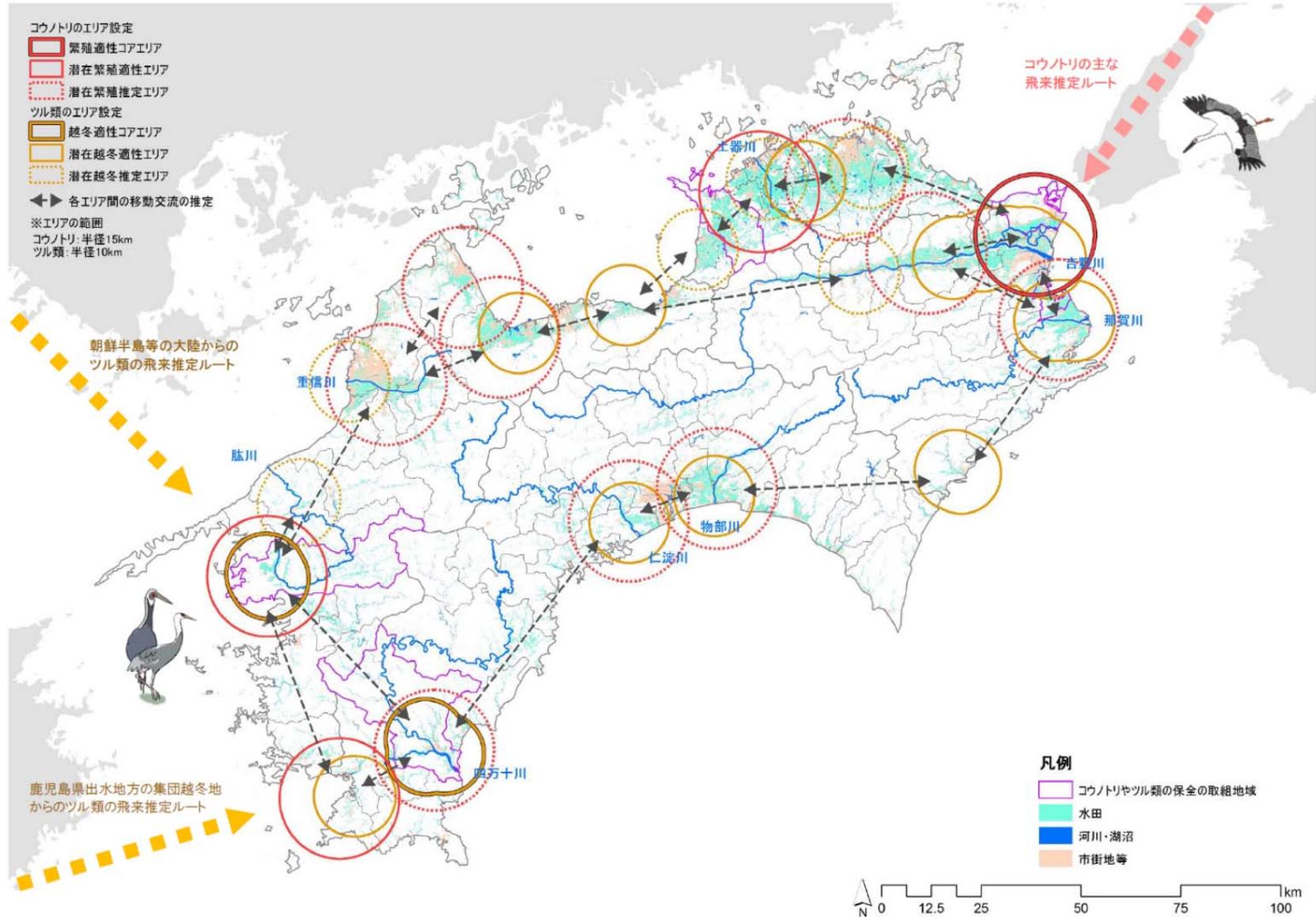
コウノトリ・ツル類は、広域的な移動・交流を行う大型水鳥類であることから、世界や東アジア、日本全国の生態系ネットワークとの連携が不可欠になります。特に、隣接する近畿圏、中国圏、九州圏域における生態系ネットワークの進展との連携を図りながら効果的な展開を進めます。

■方針7：試行錯誤に基づく順応的で着実な取組を進めます

自然環境と生きものに関わりは複雑で地域ごとの違いがあり、人と自然との関係についても大きな不確実性を持っています。地域での学びあいと話しあいを重視した合意形成を尊重し、取組の実施と客観的な検証を行いながら、必要に応じて見直す順応的な進め方を基本とします。

四国全域への展開

- コウノトリ・ツル類のくらす自然環境と社会環境の条件が整っている流域や地域から先行して取組を進め、順次、取組地域を増やしながら、四国全域へのネットワークが広がる展開を目指しています。



全体構想図

四国圏域生態系ネットワークの進捗状況の総括

- 四国の各流域・地域において、コウノトリ・ツル類の生息環境づくり、コウノトリ・ツル類を活かした地域・人づくりの取組が進展しています。四国が一つとなった「魅力的な四国づくり」の実現に向けて、関係者がより一層の連携・協働を図り、取組を推進していくことが必要です。

生息環境づくり

【コウノトリ】



現在

徳島県鳴門市で1ペア、
香川県まんのう町で1ペアが野外繁殖



目標

四国全体で
野外繁殖箇所、繁殖数を増やす

これまでの取組を踏まえて、河川区域、堤内地におけるコウノトリの採食環境・営巣環境の保全・再生の取組や人の利用の調整をさらに推進し、コウノトリの繁殖・定着につなげていくことが必要である。

【ツル類】



現在

四国各地へ飛来があるものの、
安定的な越冬地は少ない



目標

四国圏域全体で
安定的な越冬地、越冬数を増やす

これまでの取組を踏まえて、河川区域、堤内地におけるツル類のねぐら環境・採食環境の保全・再生の取組や人の利用の調整をさらに推進し、ツル類の安定的な越冬につなげていくことが必要である。

地域・人づくり

各流域・地域において、各主体が連携・協働して、コウノトリ・ツル類を活かした農業や観光業、環境教育、地域間の交流等の地域・人づくりの取組をさらに推進していくことが必要である。

シンポジウムの企画（案）

- 四国圏域生態系ネットワークの発展・継続に向けて、これまでの取組をふりかえり、四国内外での取組に対する認知度を向上させるために、協議会設立の10周年となる2026年度にシンポジウムを開催して、情報発信を行う。

四国圏域生態系ネットワーク10周年シンポジウム（案）

開催の目的	四国で行われている生態系ネットワーク形成の取組に対して、興味・関心を得る。
開催場所・方法	香川県高松市 ※対面・オンライン併用で開催
開催時期	2026年度 ※時期未定、休日での実施を想定
参加対象	一般市民等 ※対面100名、オンライン100名程度の参加を想定
内容	<p>(1) 開会あいさつ（国土交通省四国地方整備局 局長）【5分】</p> <p>(2) 基調講演「四国における生態系ネットワーク形成の取組の広がり」 （四国圏域生態系ネットワーク推進協議会 会長）【30分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コウノトリ・ツル類の飛来を機に、四国で生態系ネットワーク形成の取組が開始したこと、取組開始から10年が経過し、四国の様々な地域へ取組が広がっていることを説明 <p>(3) パネルディスカッション「各地域での生態系ネットワーク形成の取組」【85分】</p> <p>※コーディネーター：日本生態系協会 関健志</p> <p>パネラー：鳴門市、まんのう町、西予市、四万十市の首長または活動団体、 四国圏域生態系ネットワーク推進協議会会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民によりコウノトリ・ツル類の生息環境づくりの取組が継続的に行われていること、コウノトリ・ツル類が学校教育や農業・観光にも活用され、地域づくりに寄与していることを紹介 ・ 「地域住民による取組の積極的な展開」をテーマとして意見交換 <p>(4) 閉会</p>

※四国圏域生態系ネットワーク形成の取組を紹介するポスターや資料を作成し、シンポジウムの会場において展示・配布を行うことも検討する。

参考：関東エコロジカル・ネットワーク10周年シンポジウム

- 「関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会」は、協議会設立の10周年となる2023年度にシンポジウム「関東の空にコウノトリとトキが舞う 環境と治水の好循環 10年のあゆみとこれから」を開催した。



関東エコロジカル・ネットワーク10周年シンポジウム チラシ

関東エコロジカル・ネットワーク10周年シンポジウム プログラム

1. 開催地あいさつ
 2. おしえて！涌井先生 関東エコ・ネットって？
 - ・ミニ講演「関東エコ・ネット10年の成果とこれから」
【講演者】関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会会長 涌井史郎
 - ・聞いてみよう、関東エコ・ネットのこと
各エリアの子ども達からの質問に涌井先生がやさしく回答！
 3. パネルディスカッション
「河川を基軸とした生態系ネットワークによる魅力ある地域づくり」
【コーディネーター】日本生態系協会 関健志
【パネラー】野田市長 鈴木有、小山市長 浅野正富、
東邦大学名誉教授 長谷川雅美、
金沢大学先端観光科学研究所教授 菊地直樹、
大正大学社会共生学部公共政策学科教授 本田裕子、
国土交通省関東地方整備局河川部長 矢崎剛吉
 4. 閉会あいさつ
- ※各エリアの取組等を紹介するポスター展示があわせて行われた。



シンポジウム



ポスター展示